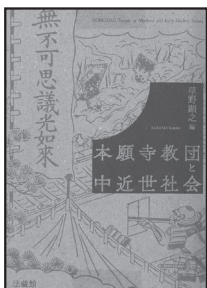


教化センターだより

No. 408

発行日 2021年6月1日
発行 真宗大谷派大阪教区
教化センター
TEL 06-6251-0745
FAX 06-4708-3278

◆ 御堂文庫 蔵書の紹介 ◆



〈発行〉法蔵館

『本願寺教団と中近世社会』

〔編者〕草野 顕之

本書は、中近世移行期の社会において真宗教団がいかなる影響力を有していたのかを問うものであります。かつて、中世における民衆闘争の最終形態として一向一揆が注目され、それを統一政権が圧伏することによって近世社会が到来したとする歴史認識がありました。
(あとがきより引用)

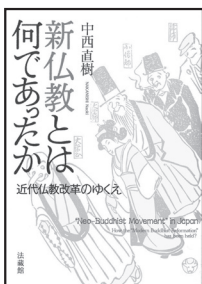


〈発行〉法蔵館

『「ぞめき」の時空間と如来経 —近世後期の救済論的転回—』

〔著者〕石原 和

如来教とは、「民衆宗教」の先駆けとして注目された教団である。この教団は、享和二(一八〇二)年、名古屋城下に住む元武家奉公人喜之(宝歴六<一七五六>—文政九<一八二六>)が神がかりをおこしたことを端緒とするものである。
(はじめにより引用)



〈発行〉法蔵館

『新仏教とは何であったか —近代仏教改革のゆくえ—』

〔著者〕中西 直樹

明治から大正初年にかけて活発化した「新仏教運動」。その興亡の軌跡と歴史的背景とを、仏教界全般の動きはもとより、国内外の社会情勢や諸宗教の動向、行政側の対応なども踏まえて描き出す。
(帯より引用)

— 教化リーフレットの
活用について —

4枚の「教化リーフレット」は、各寺院・教会において「寺報」や個別に複写しての配布、同朋会や聞法会での教材としての活用いただければ幸いです。

— 7月のリーフレット —

リーフレット①

「掲示板のごとは」……入江賀彦
「つくべき縁あれば
ともない
はなるべき縁あれば
はなるぞ」

リーフレット②

「今月のことば」……新田修巳
「矜哀定散与逆悪
光明名号顕因縁」

リーフレット③

「もしもし相談」……沼田和隆
「自信をもって
人助けをしたい」

リーフレット④

「仏典マンガ・仏さまのおしえ」
「嫉んだ僧侶」

(敬称略)

つくべき縁

あれば

ともない

はなるべき縁

あれば

はなるる

『たん歎異抄しやう』

私事ながら二年前、長年勤めた教区内の別院職員を辞して専門の寺院住職になりました。勤めていた時分は、ずっと個人事業主である専門の住職様方が羨ましく、私もそうなりたいたばかり思っておりましたが、いざ自分がその立場になると反対に職員時代が懐かしく時として妬ねたましくさえ思ったりします。彼の岸が良いと思つて此この岸から渡つたつもりが、何方どちうも同じ岸だったので。国語辞典によれば「縁」とは「原因をたすけて結果を生じさせる作用」だと出ていました。それは因と果をつなぐ「関係」そのものを言うのでしよう。私たちは「関係」によって成り立っています。「私」が「親」にな

るには「子」との関係が必要ですし、「私」が「住職」になるには、そう呼んでいただく「ご門徒」との関係が不可欠なのを言つまでもありません。

私たちは他者との「縁」によって成り立って自分自身を見出しています。しかし、その見出された「結果」ばかりに重きを置いて、それを成り立たせた「縁」をも良し悪しの判断材料にするのです。そして生じ成り立った「結果」の「いわれ」を振り返ることを忘れてしまつてしよう。

『歎異抄』のこの言葉は、そういう人間の関係や環境によつていとも簡単に立場や考え方を変える「私」を指摘してくれるのではないでしようか。

(入江賀彦)

今月のことば

矜哀定散与逆悪
光明名号顕因縁

定散と逆悪とを矜哀して、
光明名号、因縁を顕す。

衿哀とは、あわれみ悲しむという意味ですが、善導大師は、「定善」（精神を一点に統一し、善を行う）と「散善」（日常生活の散乱した心のままて善を行う）の善人にも五逆や十悪を犯す悪人にも同じように、高い立場に立ってあわれみ悲しむのではなく共に仏道を歩む同行としての温かい眼差しを向けておられます。光明とは、阿弥陀仏の光ですが、具体的には教法の言葉を指します。

名号は、称名念仏の「南無阿弥陀仏」です。

『往生礼讃』（善導著）には、光明と名号そして信心との関連を、とても簡潔に分かりやすく論述された一節があります。

この箇所を、親鸞聖人は我が身に深く受け止められて、『教行信証』（行巻）に、次のように記しておられます。

「良に知りぬ。徳号の慈父ましますは能生の因闕けなん。光明の悲母ましますは所生の縁乖きなん。能所の因縁、和合すべしといえども、信心の業識にあらずは光明土に到ることなし。眞実信の業識、これすな

わち内因とす。光明名の父母、これすなわち外縁とす。内外の因縁和合して、報土の眞身を得証す。かるがゆえに宗師は、

『光明名号をもって十方を摂化したまう。ただ信心をして求念せしむ（礼讃）と言えり。』（眞宗聖典・190～191頁）

私たちが、日頃何気なく称えている「南無阿弥陀仏」の名号も聞法の場で学ぶ教法の言葉も、私の内奥に無意識のうちにじわじわと深く浸透しつつ「眞実信の業識」を呼び覚ましてくるのです。それは、どんなに力を尽くしたとしても地獄一定の罪悪生死の凡夫でしかあり得ない悲しい我が身の覚醒を促すと同時に、何時を始めともなく

この私にかけられている弥陀大悲の誓願を、今更のごとく深く信知せしめられる目覚めの体験でもあるのです。

このように光明・名号を外縁とし、人間存在の根底に内因としての「眞実信の業識」が確実に定まってくる時を、親鸞聖人は「金剛堅固の信心のさだまるときをまちえてぞ 弥陀の心光摂護して ながく生死をへだてける」（『高僧和讃』・眞宗聖典496頁）と、感慨深く詠嘆しておられます。

（新田 修巳）

今月のことば出典 『正信偈』

『眞宗聖典』

207頁

『眞宗大谷派 勤行集』（赤本）

26頁

もしもし相談



自信をもって
人助けをしたい

問

人助けをすること
に生きがいを感じ、
ボランティアや寄付
など積極的に行っています。

しかし周りから「目立ちた
がり」とか「自己満足」と擲
揄されることもあり、自分
は偽善的などころがあるので
はと思ひ、戸惑っています。
自信をもって人助けするには
どうしたらいいでしょうか。

(27歳・女性)

答

人助けが生き
がいて素敵な
人生を歩んでい
らっしゃるのですね。先
様の喜ぶお顔を見られた
ら、こちらまで嬉しくな

って来ますよね。どうぞ
お続けになられたらいい
でしょう。

でも、そんな貴方を擲
揄される方がいらっしや
るのですね。それで戸惑
ってらっしゃる。やはり他
人の評価って気になりま
すね。

私が学生の頃にある先
生から「君は皆に好かれ
たいと考えているだろう？」
と訊ねられたので「はい」
と申し上げたところ「他
人の評価ってのは無責任
な発言がほとんどだ。そ
の評価を気にして生きる
のを『傍生』^{りやうせい}と言い、主
体性のない事で畜生道の一
つです」とご指導いただ
いたのがショックングだっ
た事を覚えています。
要するに周りの人達は

あれこれ言っても無責
任な言葉だったりするの
でしょう。それなら自分
の思った通りに進むのが
得策だと思ひます。

周りから色々評価され
ても自信をもって人助け
をしたい。でも一人人助け
は誰の為にしたらっしや
るとお思ひですか？困っ
てらっしゃる方の為では
ないと私は思ひます。

貴方は人を助けてあげ
ることを、ご自身で楽し
んでいらっしやるのですよ
ね。先様の喜ばれている
お顔は貴方にとってオマ
ケみたいなものです。時
には「いらぬお節介は
焼かないで…」と拒否さ
れることもあるでしょう。
「ごっしつて、こんないい
事してるのに」なんて思

ってしまわない事です。

親鸞聖人も『歎異抄』
の中で、「おもうがごと
くたすけとぐるごと、き
わめてありがたし。(思っ
た通りに助けられる事は
殆どないでしょう)」と述
懐されています。人間は
意図善行を行うと、いい
事をしてあげたなんて雑
念が湧いて来るものです。
この「してあげた」とい
う雑念が先方の負担にな
ったり、周りの人の心が
騒ぐ原因になったりする
のではないのでしょうか？
ただひたすら、手助けす
る。その先の事は関知し
ない。それで貴方は幸せ
になる筈です。

(沼田 和隆)



仏典マンガ・仏さまのおしえ



絵：小川ゆきえ〈192〉



参考：『ジャータカ物語』

『ジャータカ』は、仏陀の過去生の物語集。パーリ語聖典では、22編 547話からなっています。多くの経典の中に引用されて、経典の広がりとともに、世界各地に伝えられました。(ジャータカ 82)